

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

|      |                       |      |               |
|------|-----------------------|------|---------------|
| 整理番号 | 73                    | 大学等名 | 日本赤十字九州国際看護大学 |
| テーマ  | テーマV 卒業時における質保証の取組の強化 |      |               |

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、学長直轄の「企画情報室」と「AP 実行委員会」が主体となることで、学長と実施部隊がシームレスに連動していることに加え、上記実行委員会の取組は独自の「年間計画策定、中間評価、総括評価」に組み込まれる仕組みが構築されている。また、アセスメント項目（科目別到達目標の達成度についての自己評価、DP ルーブリック等）の見える化も推進されている。さらに、独自の指標である DP ルーブリックとともに、外部テスト（PROG）によるジェネリックスキルも測定されており、これらの結果に加え、独自に開発した「看護職キャリアパス基礎スケール」の結果も掲載されているディプロマ・サプリメントが配付され、卒業生の就職先での活用も広がっている。この「看護職キャリアパス基礎スケール」については、当該大学卒業生の主な就職先である病院看護師長らとの協働により開発されたことで、早期離職への対応を含め教育の質保証についても示唆を得ていることは評価できる。また、教育の質保証面では、3つのポリシーとアセスメント・ポリシーの見直し・改正により整合性がさらに高められたことは高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、全指標のうち5指標について目標値を達成しており、中でも特筆すべきは、「学生の授業外学修時間」が前年度実績値から大幅な増加となったことである。質問項目の見直しが大きく影響している可能性もあるが、学生の意識向上が見られたと考えられる。また、「事業に参画する教員の割合」が高い実績値であったことも特に高く評価できる。ただし、目標値未達となっている指標も見受けられることから、それぞれ今後一層の努力が期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、補助期間終了後の事業実施体制として、当該大学の経営・教学に関する重要事項を審議し学長の業務決定を助ける「経営会議」の直轄組織である「質保証・IR 室」が本事業に関わる事項を所管し、各取組はそれぞれの委員会が継承するとされている。さらに、当該大学の質保証については18のアセスメント項目それぞれに基づいて評価し、本事業における各々の取組については自己評価・点検の仕組みによって PDCA サイクルが回される体制が整備されていることから、補助期間終了後も継続的かつ発展的な事業実施が見込める体制が整えられていると高く評価できる。

事業成果の普及については、他大学との合同企画や教育フォーラムにおいて取組の発信が行われたことに加え、令和2年度には日本看護科学学会にて取組を紹介し、多くの看護系大学と取組の共有及び意見交換する予定であること、さらに、出口である就職先の病院との連携が他大学から多くの関心を寄せられていることは高く評価できる。一方で、当該大学が看護系単科大学であることに鑑みると、波及効果は限定的であることも予想されるが、日本赤十字関連や九州に閉じている活動が多いように見受けられるため、学会での発表など他看護大学と接点を増やし広く波及することが期待される。